

令和7年度 輪之内町立輪之内小学校 自己評価書

学校の教育目標	ひとりだちのできる生徒 ~自ら考え、よりよく判断して主体的に行動する生徒~
経営の重点	認められている安心感 学び合っている充実感 成長できた達成感

町の重点	評価の窓	評価	2学期までの成果	3学期及び来年度以降の課題と改善策
【道徳教育】 自己を見つめる力 と他を思いやる心を 育てる。	生き方(命の大切さ) についての考えを深 める道徳教育の充 実	B	・生徒の実態や学校での取り組みに合わせた資料を選び、生き方について考えることができた。 ・道徳での学びを総合学習や日常にも繋げられた。 ・道徳の時間に他の命について考え、自分だけでなく他を思いやる命の大切さにつながることを考えさせた。	・道徳の授業だけでなく、朝の会や帰りの会などの時間にも自分を見つめる時間を定期的に位置づけ、考えを深めさせたい。 ・生き方についての考えを深めるために、道徳の授業での学びの価値づけを、日常生活でも行ってきたい。 ・より自分の生き方を見つめられるような時間になるように、学年での鑑賞会を開くなどして、指導力を高めていきたい。
【人権教育】 自他の違いを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となった取り組みや差別を許さない学校・学級づくり	B	・生徒同士のトラブルがあった際には、丁寧な聞き取りを進め、振り返りを行い、仲間との関わりを見つめ直す機会を設けた。 ・問題を先に予測して学年で対応したり、事後指導したことを学校全体で共通理解したりすることができた。 ・生活アンケートの活用や朝の会・帰りの会で教師の話などで、真剣に話をすることができた。	・昨年度は各学級でかがやき見つけをして、帰りの会で言ったり、後ろに掲示したりしていた。今年はその動きはないが、それに替わる何かがあると思う。 ・毎月実施のアンケートや職員の見解が早期解決に繋がっているのを、継続していく。 ・一月に一度は、人権について考える日(ひびきあいの日)をつくり、いじめや差別について考える機会があるとい。
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図るとともに、自己指導能力を育てる。	いじめ・不登校・自殺等の未然防止と早期発見・対応の強化 SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化	B	・終礼や打ち合わせで、生徒指導関連、生徒情報など全職員で共通理解、行動を図ることができた。 ・夏休み前にSOSの出し方教育を行い、リラックス方法や相談することのよさを生徒に広めることができた。 ・普救の生徒との関わりや自分ログ、生活アンケート等から生徒の思いや悩みを知り、学年や学校で共有して指導にあたることもできた。	・不登校傾向の生徒にかかわって、家庭環境が複雑である場合もあり、担任や学年だけで抱えることなく、他の機関との連携を図りやすい仕組みを構築する。 ・生徒とのコミュニケーションをさらに図るために、二者懇談の充実や日頃から生徒の発言や表情に気づかなければならない。 ・生活アンケートについて、生徒指導の先生まで内容を当日にみてもらって、対応について考える時間がありよい。引き続き放課後にアンケートができるように。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	B	・2年生の防災1、1年生の地元企業とタイアップした環境教育等々、基本的にはやり過ぎではないかと感じるほどよくやっていると思う。 ・「まちづくり」をテーマに総合学習を行い、ふるさと納税の返礼品を考えることを通して、輪之内町への関心が高まったと感じる。	・役場の方と連携が取れたので、動いてくださることになったが、計画をする段階で、地域の方との連携を考えたい必要がある。また、ふるさと納税や商品開発に関わっていくためのロードマップが必要である。 ・地域の様々な方から話を聞いて学ぶ機会があると、より深まるのではないかとと思う。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	B	・小集団での学習活動を中心に授業を行った。グループで一つのホワイトボードにまとめたり、ロイノートで一つのカードを完成させるなど、何か一つのものグループで取り組むことを通して、対話をしながら学び合うことができた。 ・生徒がどうしたら主体的に学ぶことができるか、小集団等を活用して生徒同士が対話的な活動ができるよう仕組むことを意識することができていると感じる。また、他者との対話だけでなく、過去の自分との対話や人間以外のものとの対話なども行っている。	・目的意識や課題意識をもって主体的に学習に取り組むために、導入時に生徒の興味関心や疑問を引き出すような問いかけや問題の提示方法を考えていきたい。 ・「対話」が意味あるものでなければ形だけ終わってしまうので、何のためのペア(グループ)学習なのか、目的をもっと明確に。 ・単元を通して、どのような資質・能力を身に付けさせたいか、また、それらは教科の本質と照らし合わせて妥当性があるのかをより吟味していきたい。
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	B	・生成AIの利用や理科の実験結果のスプレッドシートでの共有等々、タブレットの有効活用はなされていると思う。 ・個に応じて学び方を選択できるよう、教材をロイノートで配ったり、レベルに応じたヒントカードを作成して資料箱に入れるなどの工夫を行った。 ・個に応じた学び方を追究していくなかでは、生徒が学び方の選択肢の一つとして自由に使用することができた。	・集団学習の授業において「個別最適」を行うためには、よほどの準備をするか、専用のソフトを利用するかには手段は限られていると思う。 ・ロイノートの使い方もっと共有したい。授業で活用できるし、生徒自身も前時の姿をデータで残せるので、活用しやすい。 ・1時間の授業すべてをICTを使うことにも欠点があると感じたため、特定の場面や時間で効果的に活用していきたい。
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が見られる指導方法等の工夫	B	・主にペアでの対話を授業中に行っているが、生徒たちは英語を話すことを楽しく行える雰囲気がある。 ・全体の場でも英語を使ってスピーチなどをすることができた。授業の最初や終末において、対話活動を行うことができた。 ・教科書の英文のストーリーや解説DVDに興味をもち、基本文、英文の理解の手助けになっている。	・生徒が意欲的に学べるように今後も学んでいきたい。 ・3年生の長い長文への理解は英語の苦手な生徒には理解が困難である。また、難しい単語やたくさん単語を覚えること課題である。
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を育てる。	労働観・職業観を育成する体験活動の位置付け 事前・事後指導の充実(キャリアパスポートの活用)	B	・将来の自分の姿を描きながら、高校選択に取り組みさせることができた。 ・職場体験学習の事前学習や体験当日、事後学習を通したり、「生きる」を活用したりすることで、キャリアプランニングや進路に向けての見通しをもつ機会を与えることができた。	・事業所と仕事内容や安全面の確認をしっかりと行っておく必要がある。 ・キャリアパスポートを定期的に利用した指導をする必要がある。 ・学校評議委員の方の事業所のアポイントメントの段階で、「何を」「どこまで」という内容を2年職員の意向をしておく必要がある。学校側がどこまでやるのか、先を見通して決める必要があると感じた。 ・将来の自分の姿を見据えた進路指導ができるように、生きるなどを活用していく。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	B	・前期の体育祭、後期の音楽祭を通して、どの学級も人間関係づくりができ、その中からリーダーが生まれできたと思う。 ・委員会活動、係活動、学校行事や宿泊研修等を通し、仲間との関わりが深まり、集団としての高まりがみられた。 ・日々の活動で、学級目標ややりたい自分に結びつけ、自分たちの行動を振り返り、お互いで高め合えることができた。	・QUの結果を参考にした指導はあまりできなかったため、検査結果も活用しながら指導をしていきたい。また、行事だけでなくステージの変わり目や日常生活の中でも学級目標に立ち返る機会をもっと作ってきたい。 ・なりたい自分につなげる意識が全体的に甘い。班会議等、日常で触れていきたい。今後も継続していく。
【健康安全】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	体力向上のための取組 自ら命を守る防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	B	・防災に関しては、地震があった時、災害があった時など機会をみて話をしたり、考えさせたりした。 ・体育では教え合い学習の時に、縄跳びをしたり、その種目に合った動きの練習をしたりすることができ、生徒が運動に親しめるようになった。 ・命を守る訓練以外でも防災について考える機会があることは防災意識の向上につながると思います。また、着衣水泳は減多に経験できないことだと思ふ。	・防災意識を常時持つことができるように、短学活や朝活動などにおいてワークシート(チェックシート)を月に1回程度行う。 ・指導方法や指導体制を工夫したりする必要がある。 ・訓練時の生徒の動きを、学級で事前事後指導をきちんとしておく必要がある。
【コミュニティスクール】 地域と一体となった特色ある学校づくりを進める。	学校運営協議会の活動、地域学校協働活動を推進し、地域とともに行う学校づくり	C	・学校運営協議会の人に職場体験の受け入れ先をお願いしていただいたことはよかった。その他学校行事等にも足を運んでいただけた。 ・地域スポーツ文化活動では、地域指導者や保護者会を中心に進められた。 ・練習の確保、大会で生徒が活躍することができた。一部の先生が参加して運営にかかわってらっていた。	・体育館やグラウンドの使用について、部活動間が調整をしている。町教育委員会から、使用できる日を聞き、地域指導者同士で調整を行い、練習計画を立てることも検討していく必要があると考える。 ・学校運営協議会が何をしているのか、という動きがあまり見えないです。ただ、無理に動く必要もないと思っています。どんなことが一緒にできるのかを全職員が知る必要がある。
【学校経営】 全教職員が協力し、チーム・学校として活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	B	・夏休み前まではチーム担任制を行うことができ、それぞれの学年での動きが作れていたと思う。 ・職員室の話題が多く、活発な雰囲気や校務を進めることができた。 ・学年のまとまりが強く、話し合いや方策、指導支援を検討する姿が多く見られた。 ・事務的な仕事の軽減のためのスクールサポーターの導入は軽減につながったように思う。	・チーム担任制を軌道に乗せ、学年の生徒は学年の職員みんなで見ていく体制にしていきたい。 ・若手職員が多いので、職務の優先順位をつけて進めることを啓発していく。 ・仕事が一人の先生に任せきりになっているときもある。適正な人数を確保する。 ・勤務の途中に少しの休憩があるとい。週の中の半日位の休みの体ももつような気がする。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	研修主事を中心とした組織的・計画的な研修の実施	C	・生成AIのような先進的な内容についての事前指導があっても、なんとなくではあるが、近づけたような気がする。 ・研修の効果がよかった。AIを正しく活用できるような研修や、ロイノートなどのICTを授業内で活用できるように使い方の講座を行うことで、授業準備の効率化・簡素化につながった。	・年間の研修計画ができていて、それに基づき研修主事が中心となって職員研修のコーディネートをし、担当者研修を進めていくような体制が作れるとよい。 ・ネット環境を完備する必要性があると感じた。また、誰しもがロイノートなどにアクセスできるように個人情報の管理も徹底してい。
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立した社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	C	・特別支援学級に所属する生徒が交流学級での授業や行事などに参加するために、特別支援学級担任と通常学級の担任との連携により、配慮が進められた。 ・通常学級にいる支援が必要な生徒について、考えられる場がもっとあってもよい。 ・一人一人が自立できるように自立活動を通して、細やかな作業や人への思いやりの心を育てるSST活動をした。	・年間の特別支援関係の計画を作成し、担任の先生が見通しをもって指導できるように配慮したい。 ・年度末と年度初めの担任や職員の交代による支援の途切れがないよう引継ぎを確実に。 (生徒の特性、本人・保護者のニーズ) ・ケース会議を定期的に開いて、どんなサポートができるのか、どんな関係機関があるのかを学びながら検討できるとよい。

学校関係者評価	【評価項目】 評価の着眼点	評価点 (4点満点)	評価	
	【生徒の学校生活】 ・いじめ、不登校傾向の生徒に対して手立てを講じているか。 ・願う姿、目指す姿が、生徒、保護者、学校で共有されているか。 ・安心、安全のための手立てが講じられているか。	3.4	A	
	【学習状況について】 ・学習規律を指導し、学習に向かわせているか。 ・タブレット端末など活用する場面を設定した授業を行っているか。 ・小集団での交流を位置づけ、一人ひとりに学力が身につく指導をしているか。	3.9	A	
	【地域との連携について】 ・「地域で活躍する中学生」となるように指導しているか。 ・ふるさと教育が行われているか。	3.5	A	

- ・道徳で教師の体験談を真剣に聞いていた。
- ・イングリッシュデーはネイティブな英語で学習ができてよい。
- ・輪中音楽祭での中学生の合唱がとてもよかった。
- ・発表の仕方、学習に向かう姿がよい。
- ・ふるさと納税の返礼品などを考えるなど、地域に貢献する学習内容がよい。
- ・生徒の立場から町にアピールするとよい。
- ・地域の祭り等で活躍する中学生が増えてきている。
- ・中学生防災士はよい活動である。
- ・校内に入るフェンスが施設してあるなど安全対策がされている。